

第6回九州厚生局  
地域包括ケア市町村セミナー

# 認知症の方を地域で支えるための種まき

～「地域住民」・「介護事業所」・「行政」の三位一体の取り組み～

福岡第二合同庁舎

20161221



めおといわ「ゆい」  
Community Care Base

医療法人社団誠仁会  
小規模多機能施設めおといわ「ゆい」

福岡市城南区東油山1-33-7  
<http://www.meotoiwa.com/>

# 私たちが考える『2つのCS』

地域密着型サービスの使命

## Customer satisfaction

- ◆ 自立支援(自律支援)
- ◆ 自己決定
- ◆ 日常生活の継続

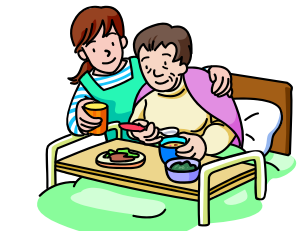
## Community satisfaction

- ◆ 安心拠点
- ◆ 信頼
- ◆ 将来不安の払拭(心構え)

# 「3大介護」中心の支援から「暮らし」の支援へ

これまでのケア

これからのケア



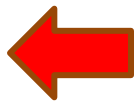
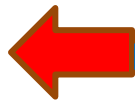
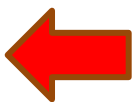
食事



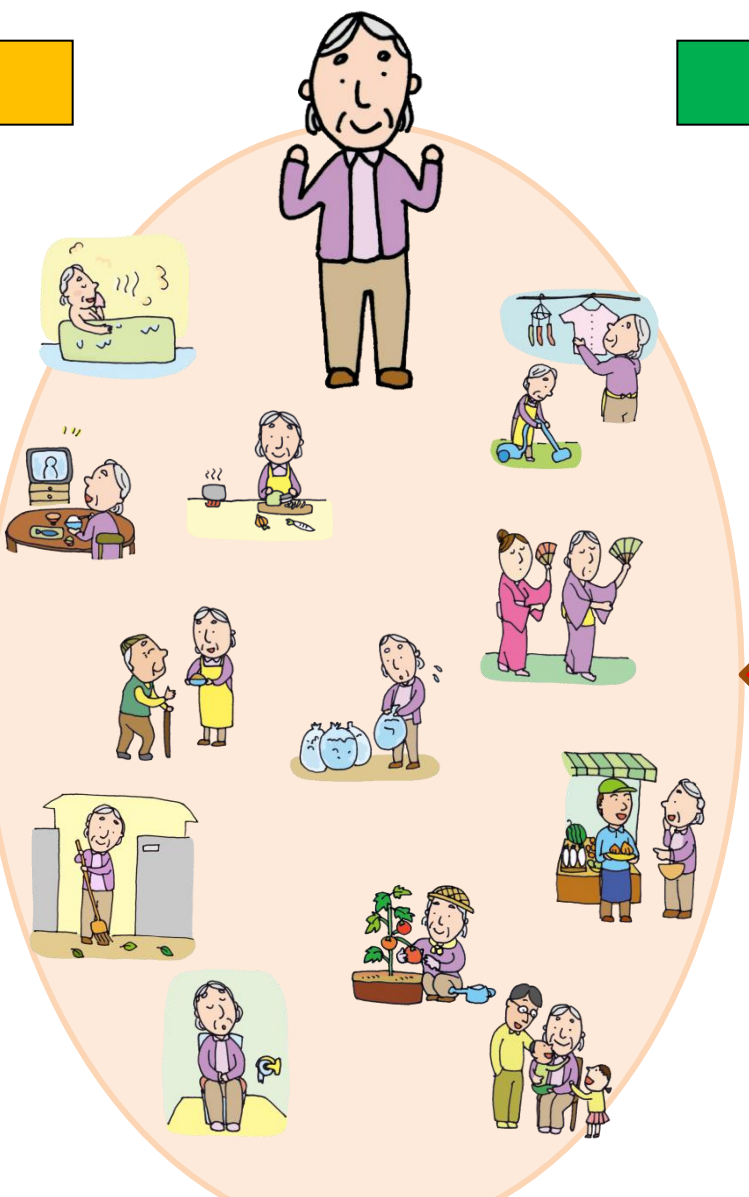
排泄



入浴



抜き出し支援



本人の暮らし

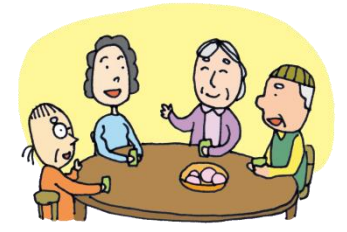


暮らしそのものを支援



事業所

地域とともに



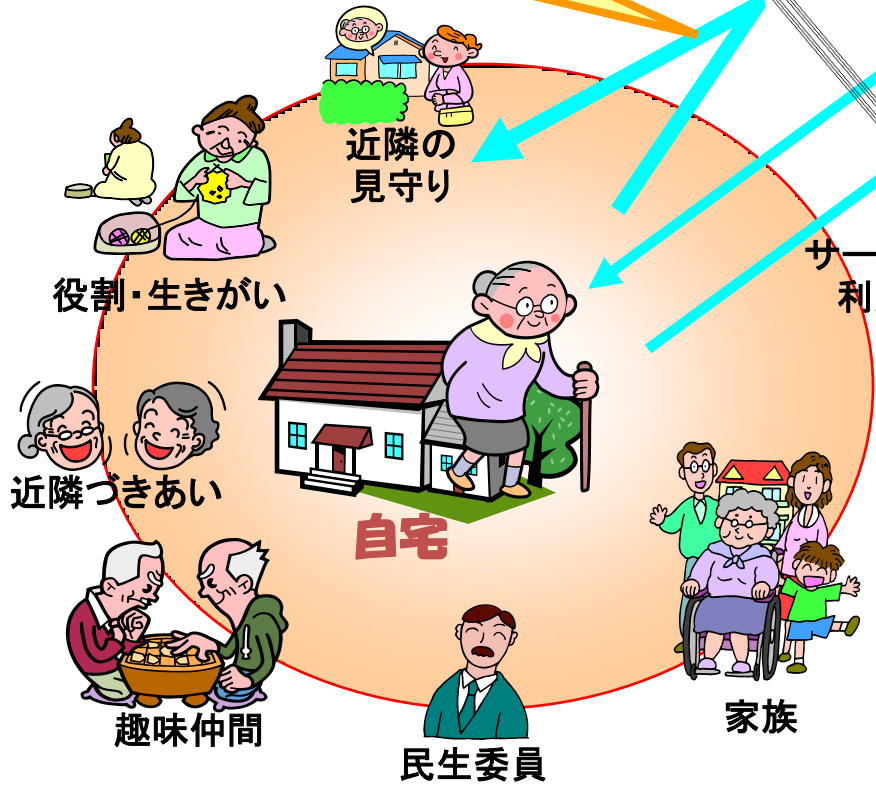
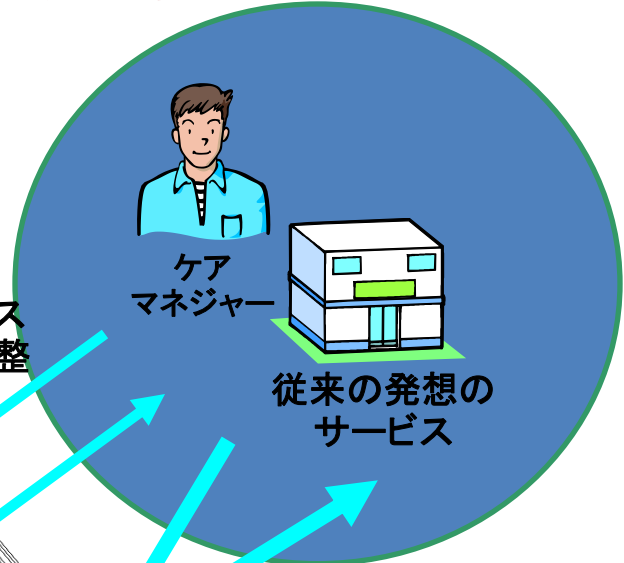
地域

# 地域での暮らし

# 地域での暮らしをサービスで切らない

「福祉施設に行ったんだったら安心だわ」  
「もう、専門家が関わってるんだったら大丈夫ね」  
「茶飲み友達が減っちゃって淋しいね」

地域から本人を奪ってしまう支援

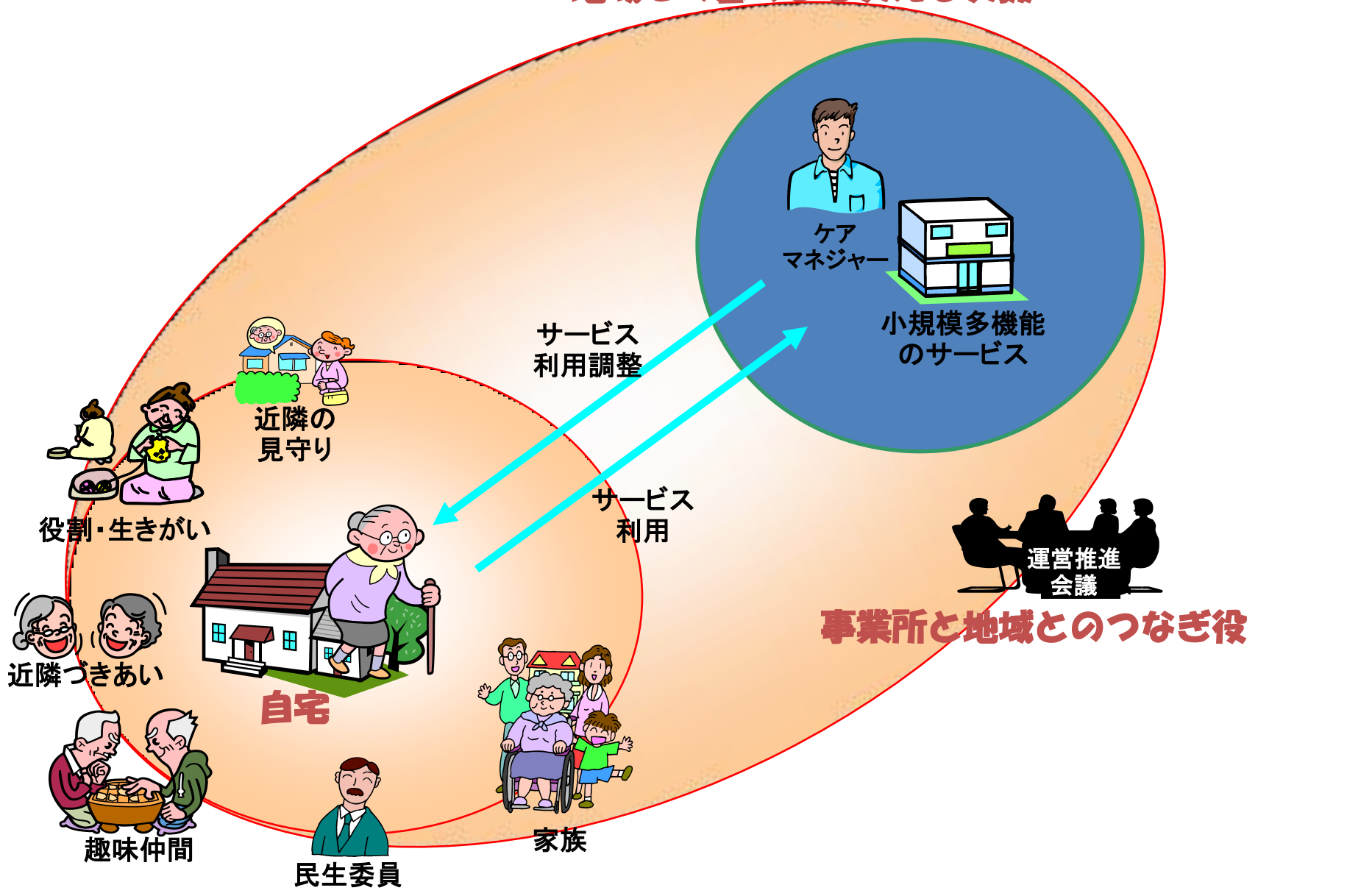


サービス  
利用調整

サービス  
利用

「家族に心配かけたくないから・・・」  
「もう自分では、何もできないかも・・・」  
「茶飲み友達が減っちゃって淋しいね」

地域での暮らしを支える支援



**「認知症の方を地域で支えるための」**

**～種まき～**

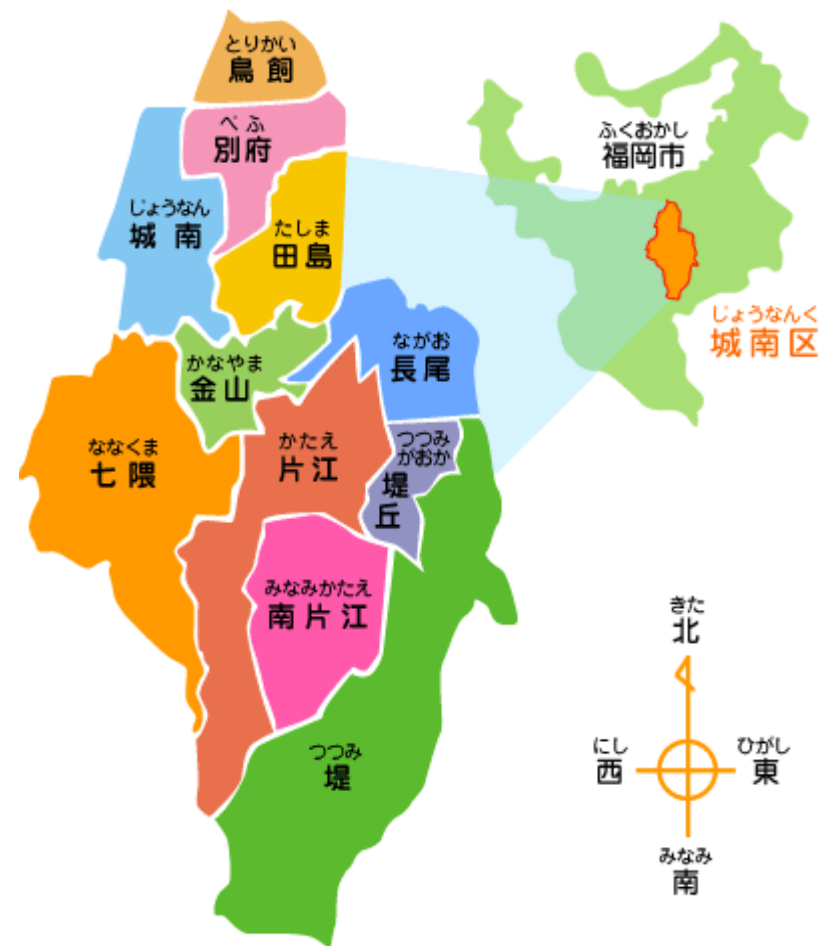
キーワードは融合



# 福岡市城南区堤校区

福岡市：153万人 高齢化率：19.9%

	堤校区	城南区
世帯数	4,519	58,988
人口	10,126	122,709
高齢者人口	2,629	26,873
高齢化率(%)	26.0	21.9
		H27.10現在



# 運営推進会議を活かして

- ◆「介護サービスに預けてればいい」「専門家だけに任せておけばいい」という思考からの転換
- ◆「認知症になっても、介護が必要になっても安心して地域で暮らし続ける」という理念を共有する機会
- ◆運営推進会議を事業所と地域、利用者と地域を結ぶ有効な手段として活用する



## ④地域づくり・資源開発機能

◆参加者それぞれのニーズを確認する

○事業所・・・「24時間365日事業所だけで利用者の暮らしを支えることは限界がある」

「地域の理解や協力が得られれば、本人の意思とは無関係の安易な施設入所は防げるはず」

○地域住人・利用者・・・「まわりに迷惑をかけないのであれば、老人ホームには入りたくない」「できればこの地で暮らし続けたい」

○行政・・・「だれもが住みなれた地域で安心して暮らせるまちづくり」

～共通項目～

「住み慣れた地域での暮らしの継続性」

キーワードは『協働』

## 参加者全員で事例を深めあう



## めおといわ「ゆい」 運営推進会議の様子

### 【参加者】

利用者、家族、自治会長、民生委員（複数）、公民館長、大学教授、行政（市役所・区役所・校区担当保健師）、社会福祉協議会、認知症介護指導者、近所の介護事業所、ケアマネ、薬剤師などなど

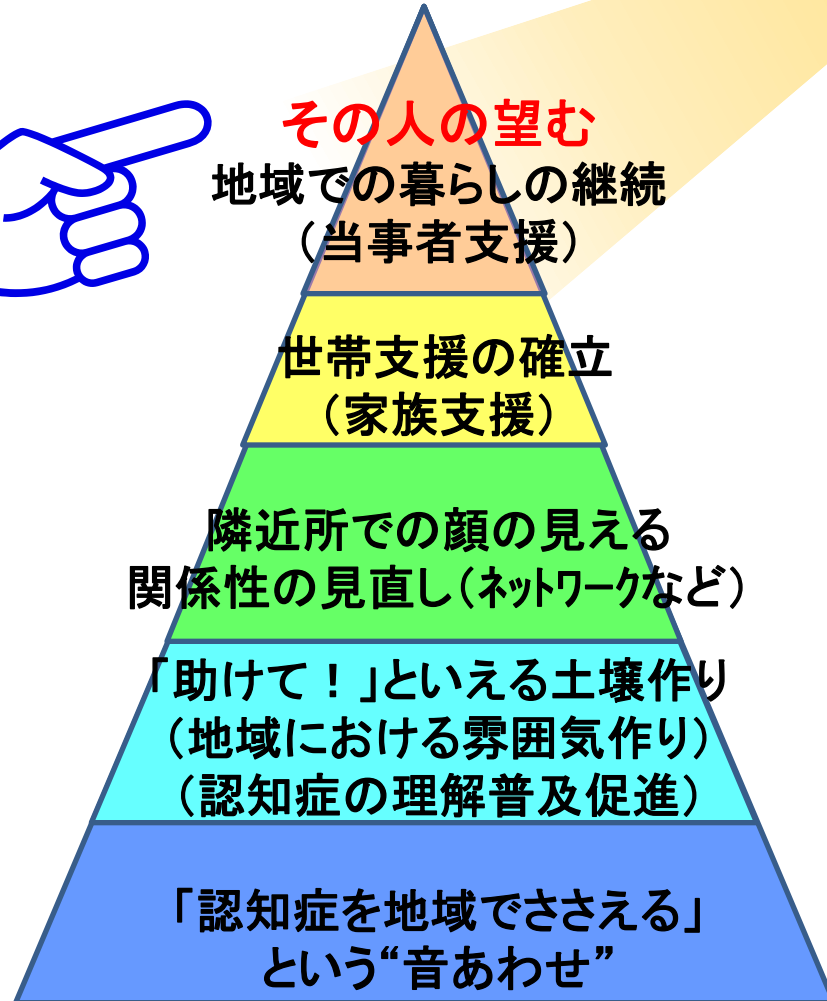
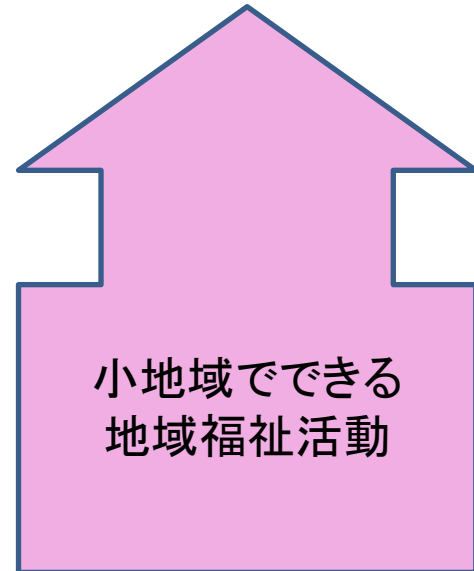
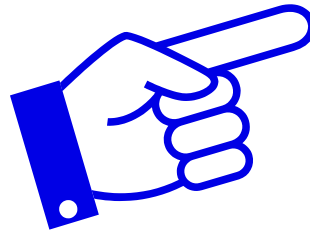
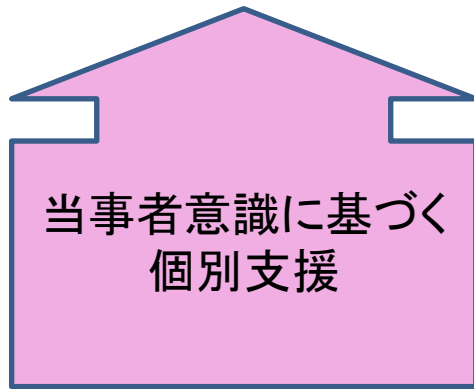
### 【会議の内容】

- ・運営状況等の報告
- ・事例報告／検討
- ・それぞれからの情報発信
- ・意見交換
- ・「ゆい」にできること
- ・「地域」にできること  
など・・・。

## みんなで避難訓練



# 小地域福祉のこれから

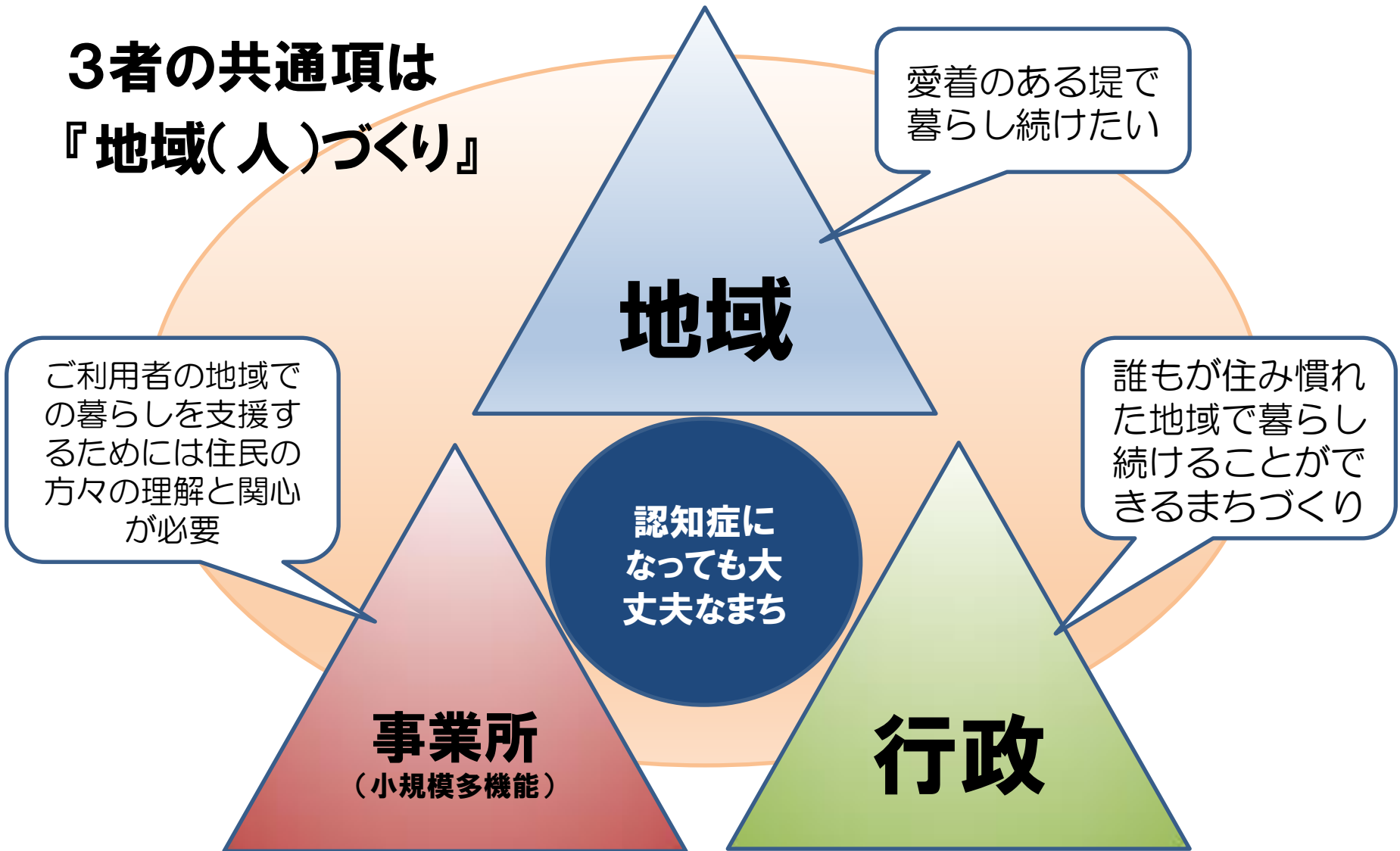


個別ケース

地域での取り組み

# 地域における『三位一体』

3者の共通項は  
『地域(人)づくり』



# それぞれの役割

(それぞれの強みを活かす)

住人同士、日々のお付き合いの中で“お誘いあわせ”をする。「今度、公民館であるから行ってみようよ」「無視できん問題だから・・・。」

**地域住人**

認知症ケアに対する助言、専門的アプローチ、培ってきたスキルを反映

**めおといわ「ゆい」**

仕掛け人、プログラマー、それぞれの機関との関係調整役

**行政**

# ～地域で認知症を考える～ 認知症サポーター養成講座



## 【目的】

- ※当事者目線で(他人事ではない)
- ※認知症の理解を深めるとともに地域の横のつながりを深める機会にする
- ※おたがいさまの認識を強くする

# 劇団つつみ旗揚げ

## 【メンバー】

自治会長、民生委員、公民館主事、自治会役員、ボランティア、運営推進会議メンバー、校区担当保健師など

シナリオやアドバイスは専門職でサポート

平成21年から40回以上の公演活動  
(認サポ°以外でも活躍)

立ち消えることなく7年目を迎える







# 地域の文化祭で

○△会長が出とるバイ！民  
生委員の□○さんも！！  
「やっぱりみんなで考えな  
いかんね・・・。」



**120名の聴衆者！**  
**立ち見が出るほど！！**  
⇒「地域住人が主体となる意味」

# もっと知ろう認知症

認知症サポーター養成ステップアップ講座  
10月29日(月) | 地域を支えるシステム

11:20 趣意  
11:30 勉強会  
11:35 小休憩(10分)  
11:40 =  
11:45 小休憩  
11:55 勉強会  
12:00 終了

誰かをサポートできたい

成エカの体験  
(認知症はくせ、地域はくせ)

この人のここが  
おもしろい

次回

11/19(月)  
10:00~12:00

## H24年度 堤地区認知症サポーター ステップアップ講座(4回講座)

認知症への理解が浸透してくると・・・。

○「もっと認知症の理解を深めよう！」

○「認知症の人が安心できる地域って関心  
しあえる、支えあえる地域ってことだよね。  
これって認知症だけではなく、地域にとっ  
ても必要なことだよね」

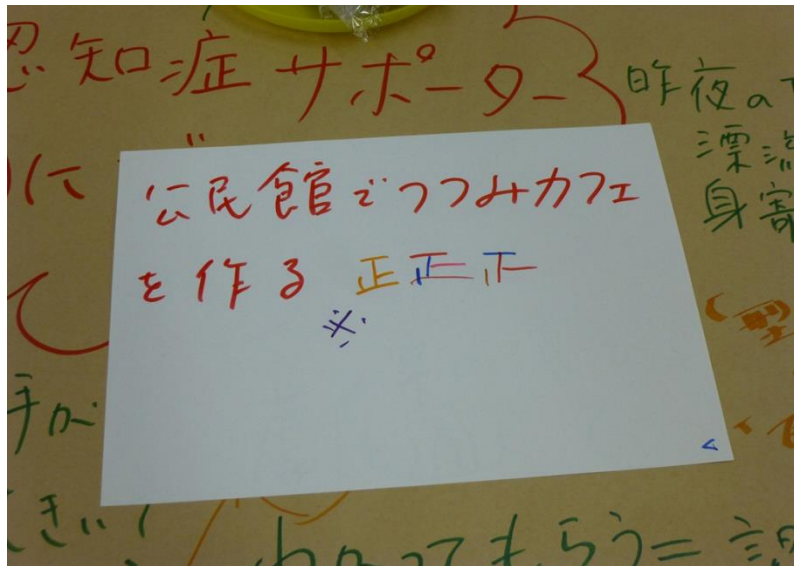
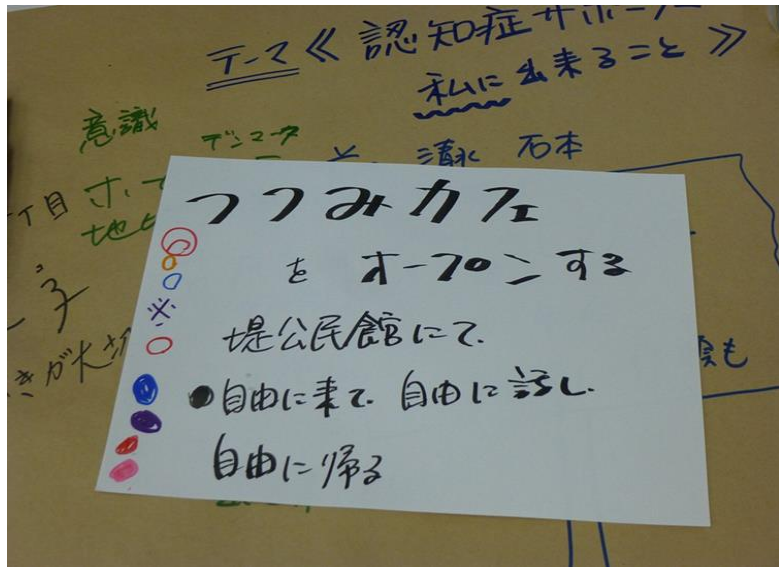
○「じゃあ、我々一人ひとりにできることっ  
てなんだろう」



平成24年度堤地区「認知症になっても、安心して暮らせるまちづくり事業」  
 (公民館「公民館地域人材発掘・育成支援事業」・社協「福祉座談会」)

プログラム (案)

	時期(日程)	テーマ	内容	講師・担当
1	10/29(月) (10時~12時)	地域で支え合うシステム ~地域での支え合いを目指して~	・劇団つつみの取り組み紹介 《内容》劇団つつみ結成の経緯・成り立ち、活動開始から現在まで、その後活動報告、20分程度の寸劇 ・(グループワーク) 自己紹介、今後学びたいこと	・覚さん ・ファシリテーター 田坂氏 ファシリテーション協会 事務局
2	11/19(月) (10時~12時)	「本人を支える」ための世帯支援を考える	・第1回の振り返り(グループワークでまとめた「今後学びたいこと」の紹介) ・(講話)「本人と家族それぞれの立場に立った支援を考える」 ・(グループワーク)講話を聞いての感想、自分にできそうなサポートを考えよう 《内容》講話を聴いた上で、制度だけではカバーできないインフォーマルな部分を地域でサポートできないか、参加者で話し合う。	・ケアプランセンター うさぎ 主任ケアマネ 上坂美紀代氏 (サブ:覚さん) ・ファシリテーター 田坂氏
3	12/17(月) (10時~12時)	地域発~関わりあえるまちづくり~	・第2回の振り返り(グループワークでまとめた「自分にできそうなサポート」紹介) ・(シンポジウム)~過去の「認知症になっても、安心して暮らせるまちづくり事業」会議で語られたそれぞれの思いから~ 《内容》地域の代表者数名から、昨年度行ったワークショップで出され、まとまった意見について語っていただき、それをふまえて参加者が「自分たちにできること」を考える。 ・(グループワーク)「こうなればよい」から一歩進んだ「これをやろう」を決めよう ※シンポジウムに組み込んで実施。	・(地区の代表者)  ・ファシリテーター 田坂氏
4	1/21(月) (10時~12時)	私たちにできることとは ~さあ、一歩踏み出そう~	・第3回の振り返り(グループワークで決めたことの確認) ・お茶とお菓子を楽しみながらの座談会 《内容》3回目で決めたことを、内容別グループ分けを行ったうえで今後の具体的な活動についてざっくばらんに話し合う。	・ファシリテーター 田坂氏



# ～堤校区 認知症事業～

## つつみカフェ オープン♪



### 【目的】

- 認知症になっても住み慣れた堤地区で暮らし続ける
- 認知症に対する偏見や差別をなくす
- 自分達の手で、地域の為にできることを無理なくやる(継続する)
- 当事者も家族も悩みを抱え込まないで相談できる相手・場をつくる
- 地域のことは地域で支える
- 地域の成熟度を上げる(豊かな堤地区を作る)

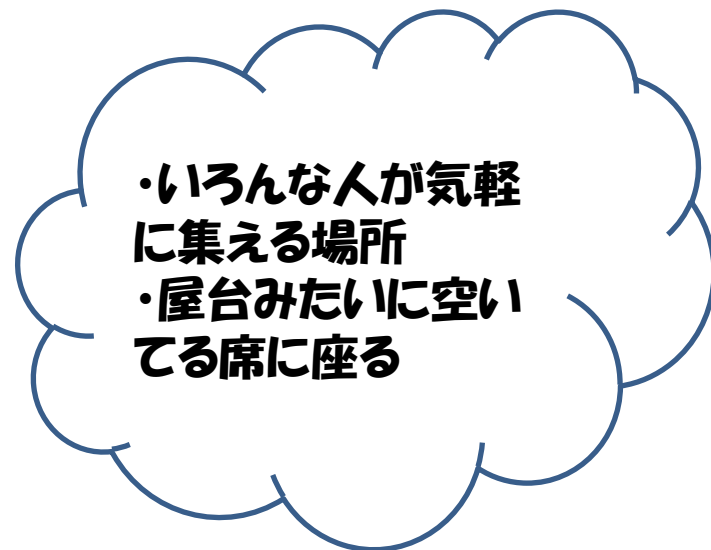
# 平成25年5月 オープン



## 《主な来店者》

- ◆ 認知症の当事者、支える家族
- ◆ 地域にお住まいの住民
- ◆ 認知症サポーター
- ◆ 近隣の介護保険事業所  
(小規模多機能、特養、GH、DSなど)
- ◆ 地域の乳児院・障がい者施設
- ◆ 堤小学校が授業の一環で来店したことも
- ◆ 行政関係者
- ◆ 視察





- ・公民館で月一回開催(当日貸切)
- ・開店時間: 10:00~16:00
- ・自由に気ままに来店
- ・毎回80名~100名近くの来店
- ・無料(募金箱を設置)
- ・認サポ受講者が当日ボランティア









地域は専門職の協力を  
求めている



福岡の未来が  
かかやく。



みんなのやさしいで

みんながやさしい、みんなにやさしい  
ユニバーサル都市・福岡賞 2015  
受賞者のご紹介

INTRODUCTION OF WINNERS OF THE 2015 UNIVERSAL FUKUOKA CITY AWARDS

全民城市福岡賞 2015 获奖者介绍  
유니버설 도시·후쿠오카상 2015 수상자 소개

みんながやさしい部門

Friendly People Category

人人关爱部门  
모두가 친절함 부문

最優秀賞  
First Prize  
最优秀奖  
최우수상



認知症つつみカフェ  
実行委員会

The Tsutsumi Café for Dementia Patients Committee.  
認知症慈慈咖啡実行委員会  
치매 환자를 위한 카페 실행위원회



「認知症の人やその家族、  
また地域住民が気軽に立ち寄れて交流できる場の提供」

“For offering a local venue where dementia patients and their families can drop in and get together.”  
“为有认知障碍的人及其家属，或区域居民提供可随意参加交流活动的场合”  
“치매 환자와 가족, 그리고 지역 주민이 부담 없이 교류할 수 있는 장소 제공”



「認知症にやさしいまち、認知症になっても安心して暮らし続けられるまち」を合言葉に認知症サポーター養成講座を展開。当事者も家族も地域住民も気軽に集える居場所作りを認知症カフェという形で展開し、横断的なつながりを大切にしながら地域一体となって取り組んでいる。

選考理由

- カフェとして当事者だけでなく、気軽に誰でも参加できるという点で、市内においてこれまでの認知症に関する取組とは一線を画す先進的な取組み。
- 地域住民との連携もできており、持続可能な運営の仕組みも評価できる。



# 表彰状

福岡市城南区堤校区住民殿

小規模多機能施設めおといわゆい施設長 党一浩殿

福岡市城南区保健福祉センター 地域保健福祉課職員殿

貴殿は学習意欲の高い認知症サポーターの力を結集し地域の人が集うつつみカフェを開き認知症の人の支援に尽力してこられました。これは地域の財産となるものと認められます。よってここに表彰いたします。

平成二十八年一月三十日

全国キヤンペイト連絡協議会推進委員会

委員長 若杉史夫



# RUN伴2016 “特別つつみカフェ”



# 地域のプライド・地域の財産となる



民生委員・  
推進会議メン  
ンバー

劇団つつみ

推進会議メンバー・  
劇団つつみ

ほかのケースで関わっ  
ている民生委員

サロン仲間

地域に住ん  
でいる  
ご利用者

ご利用者の  
おとなりさん

ご利用者

民生委員・  
推進会議メンバー

自治会長の奥さん  
(ご主人は劇団つつみ/  
推進会議メンバー)

昔から  
の友人

ご近所





通い慣れた週一回の体操教室

「認知症になっても」  
これまで築きあげ  
てきた周りとの関係  
を断ち切らない

長い付き合いの仲間たち

本人を支える  
サポーターは身近  
に存在する！！  
⇒「近助」



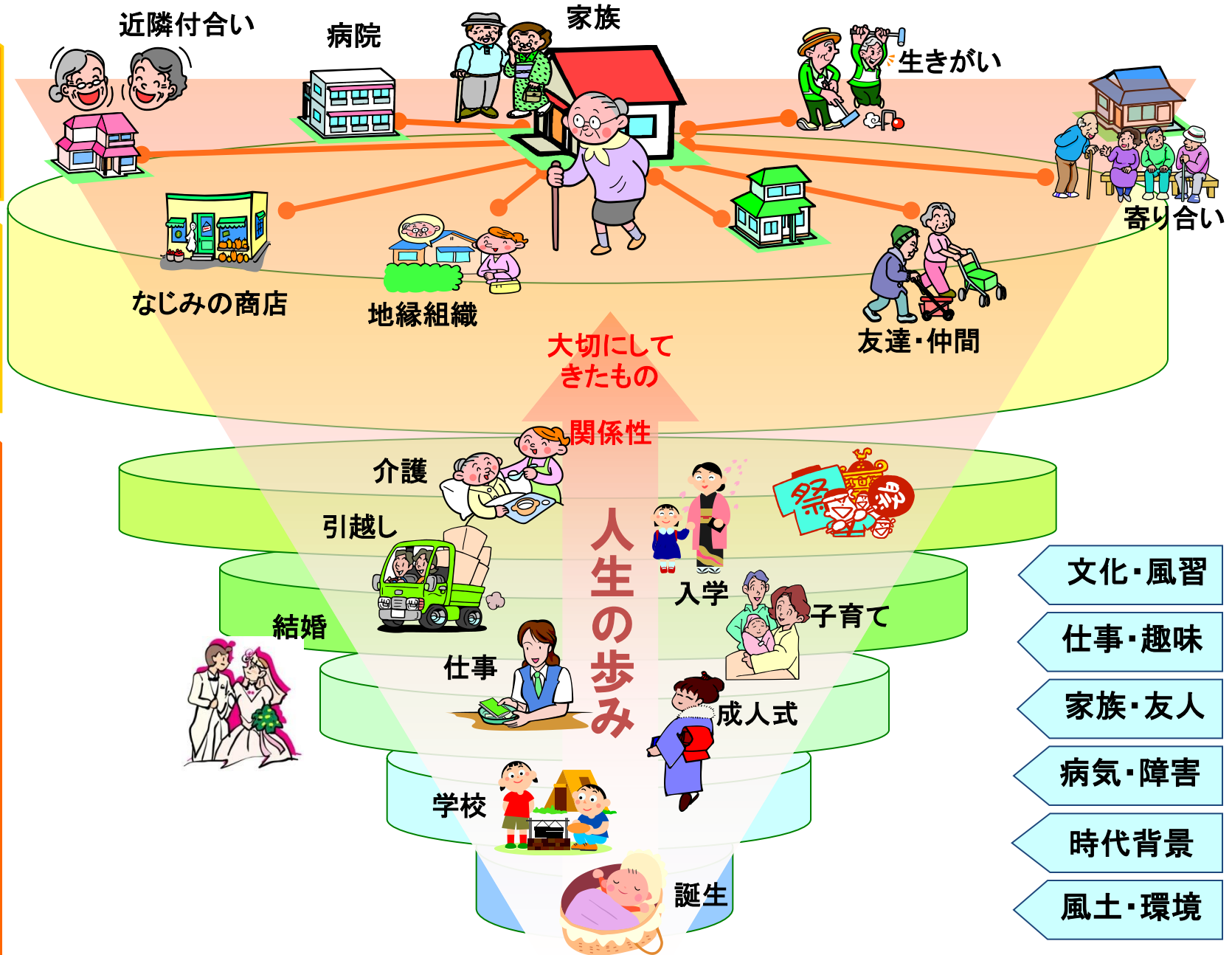
# 人生の歩みの中で築かれたその人の暮らし

人生

将来

現在

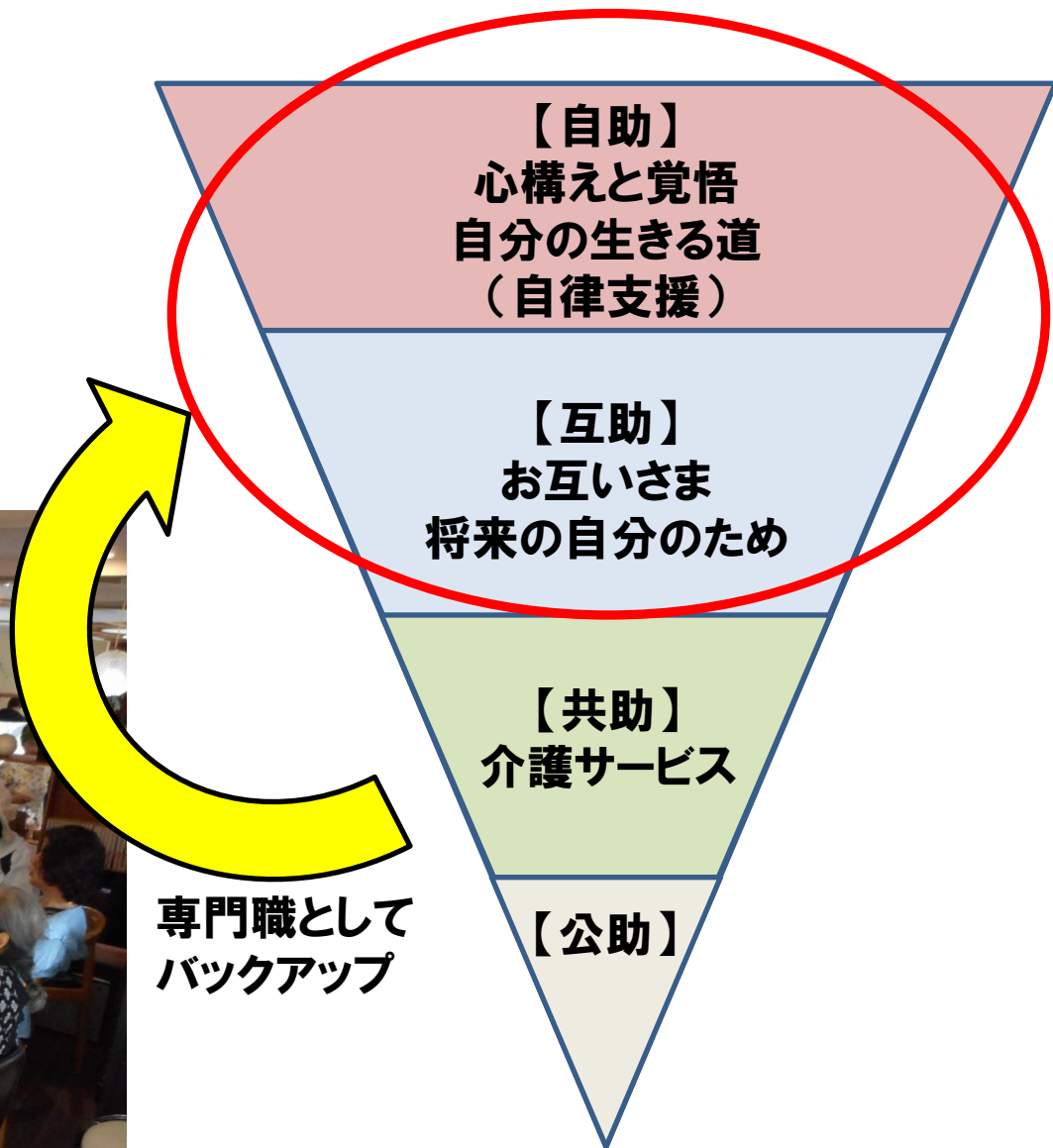
過去





# 血の通った『パーソナルサポートネットワーク』

※「近助」から生まれる助け合いは、その人の暮らしの継続性にも反映されることはもちろんのこと、支えての住民にとっても将来における自分自身の心構えと覚悟につながるものとなる



# 暮らしを支えるための視点

これまでのケア



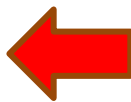
食事



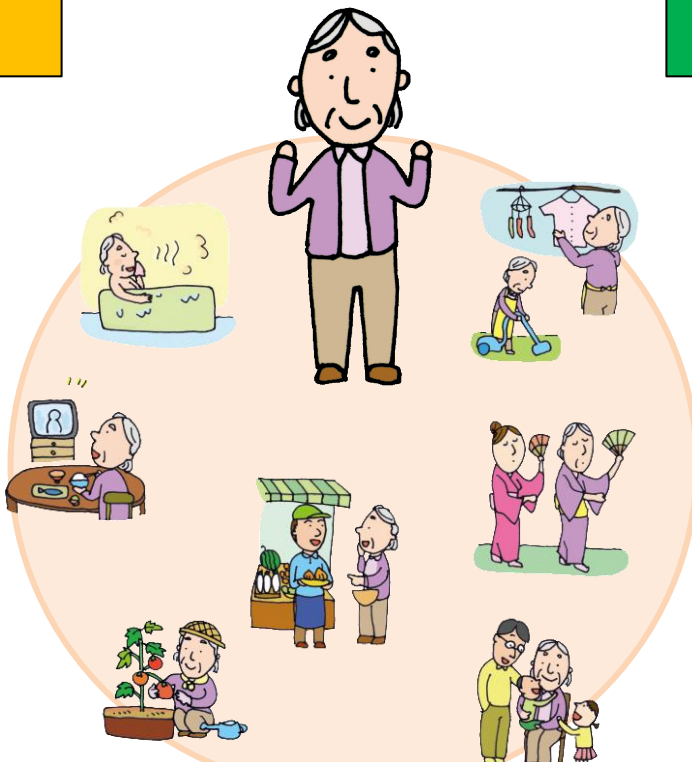
排泄



入浴



抜き出し支援



本人の暮らし

これからのケア

事業所



本人・家族  
地域とともに



地域



暮らしそのものを支援



介護(直接援助)

自助

※リハビリ (本人の努力)  
※家族介護 (家族の努力)



この時の視点



介護(直接援助)

環境改善運動  
(環境改善アプローチ)

※本人と取り巻く人・状況への取組み

# 事業所と地域のWIN-WIN

## ◆事業所が地域とつながるメリット

- ・可視化されることによる質の向上
- ・スタッフのモチベーション
- ・2つのCS評価

## ◆地域が事業所とつながるメリット

- ・いままでよくわからなかった介護の実際
- ・これまで前進しなかった地域福祉事業の進展
- ・将来への心がまえ

# 本人を支えるために地域と関わる

※ご利用者の暮らしを支える為に事業所のみで暮らしを完結させるのではなく、周囲(環境)を改善させることで、自宅や地域で安心して過ごせることができる取り組みが求められている

必要なのは  
「環境改善運動」  
「地域における種まき」

安心して自宅で過ごせる時間を支援する(自立支援・家族支援等)

サービス漬けにしない制度設計  
(包括報酬・通い定員・宿泊定員等)

小規模多機能型居宅介護  
のミッション:その人の望む  
自宅や地域での暮らし支援

介護保険の三原則  
◆自立支援  
◆自己決定  
◆日常生活の継続

地域住民との協働:  
住民の意識の変化  
「明日はわが身」



まちづくり:住民  
の心構え⇒地域包  
括ケアシステムへ

心構えが備わり  
行動へ

市民の気付き  
無関心から関心へ